

第220話 達磨寺田植踊り その2 中山町 歴史散策

達磨寺田植踊りの構成について見ていきます。この踊りは、踊り手として、全員が農家の後継者、長男で構成されてきました。前列にテデ衆と呼ばれる踊り手が4人、その中央に中太鼓が1人加わります。後列には、女装のソトメ（早乙女）が4人います。囃子方は笛3人、太鼓1人、鉦かね1人、唄い手2人の都合16人によって座が組まれます。着衣は、テデ衆は紫地に上り竜・下り竜の模様の法被（陣羽織）に紫の股引、足袋に草履履き、手甲、白鉢巻、右手に三尺ほどのテデ棒を持ち、それを地面に強く突き立てながら踊ります。

中太鼓は、テデ衆と同じ服装で、左手に団扇太鼓、右手に撥はらを持って調子をとりながら踊ります。この服装の、法被に描かれた上り竜と下り竜の模様は、団扇太鼓の連打と共に田植えに必要な雨を呼ぶものとされています。

ソトメは、右半分は白、左半分は紫の中振袖の上衣に赤い腰巻、紫の手甲、脚絆、白足袋に草履を履き、曲目により綾竹、扇子、ビンザサラを持ち替えて踊ります。これは田植え作業の模擬動作を演じるものとなっています。

囃子方の笛・太鼓と、鉦方は

法被の襟に達磨寺田植踊保存会の白抜きの銘もついています。天保期のものは残されていません。下は紺の股引に草履履き、頭には白鉢巻を結び、唄い手は紋付袴の姿です。



▶毎年4月に行われる「お達磨の桜まつり」で披露される（写真は今年4月）

【語句の説明】

ビンザサラ…民俗芸能で使われている楽器のこと。踊りながら手に持ったビンザサラを巧みに操作してさまざまなリズムを作るもの。

※引用 中山町史 中巻

第10章第4節 民俗芸能と娯楽

私たち地域おこし協力隊です！ No.86

おかげさまで中山町地域おこし協力隊着任から2年が過ぎて、任期満了まで残り1年となりました。

『スポーツとフルーツを繋ぐ農産物加工品』の商品開発をミッションとして試行錯誤の日々。着任して商品開発を始める前に、多くの町民の皆さんと出会い自分の存在を知ってもらうことに注力し、コミュニケーションをとることが初めの仕事だったのかもしれないと、懐かしく振り返ります。今では活動拠点にわざわざ会いに来てくださる方や声をかけてくださる方もおり嬉しい限りです。まだまだ町民の皆さんに認知されていない存在ですが、中山町民としてすっかり馴染んでいるように思います。

また、県内の地域おこし協力隊員研修会では中山町のことを知らない隊員もあり、そのような時には中山町の良いところを猛烈にアピールしているので私を覚えていてくれる方も増えています。今後は中山町に遊びに来てくれるように何か企画して、私の存在が関係人口の創出に役立てればと思っています。

ミッションの商品開発の商品化にはもう少し時間がかかりますが、成し遂げたいです。ラストイヤー！引き続き暖かく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦



宮城県地域おこし協力隊フェスにて中山町PR活動の様子

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271（総合政策課）